

鈴木 舞 & 川口成彦

モーツァルト
25歳の決心と
ウィーンでの新たな旅立ち

モーツァルト！ ヴァイオリン・ソナタ 全曲演奏会

第3回 プログラム

「1781年 vol.2」

ロンド ハ長調 K.373

《泉のほとりで》による6つの変奏曲 ト短調 K.360

ヴァイオリン・ソナタ第35番 ト長調 K.379

「美しいフランソワーズ」の主題による12の変奏曲 変ホ長調 K.353 (ピアノソロ)

ヴァイオリン・ソナタ第36番 変ホ長調 K.380

ヴァイオリン・ソナタ ハ長調 K.403

※プログラム等は、やむを得ない事情により、変更になる場合がございます。

2022年 1月15日 (土)

14:30 開場/15:00 開演

【入場料】

会員 4,500円 (座席指定可) / 一般 5,000円 / 学生 2,500円 (全席自由席)

<https://bit.ly/3po6s5P>

モーツァルト 25歳の決心とウィーンでの新たな旅立ち——

鈴木 舞&川口成彦

モーツァルト・ヴァイオリンソナタ全曲演奏会

2022年1月15日 (土) 第3回「1781年 vol.2」
開場14:30/開演15:00

【入場料】

会員 4,500円 (座席指定可)/一般 5,000円/学生 2,500円 (全席自由席)

鈴木舞&川口成彦による、モーツァルト・ヴァイオリンソナタ全曲演奏がついに発動!!
想像を超え、愛に満ち溢れたモーツァルトの音楽の旅へ——

【123シリーズ・全曲プロジェクト第4弾】

鈴木舞&川口成彦によるモーツァルト ヴァイオリンソナタ全曲演奏、第3回目!
鮮烈なスタートを切った第1回目では、モーツァルトの音楽の不思議な魅力を圧倒的に感ぜずにはいられませんでした。そして第2回目「1781年 vol.1」では、さらなるモーツァルト音楽の新たな発見を魅せられ、続く第3回目「1781年 vol.2」への期待が高まります。

モーツァルトの音楽は、どんな曲であっても、常に太陽のようにわたしたちを照らしてくれます。

"全曲"演奏会だからといって気を張ることはなく、聴けば聴くほど体が軽くなり、浄化されていくのがモーツァルトです。

カール・バルトという神学者は、「天国では、神様たちはモーツァルトの音楽ばかりを聴いている」といっています。

モーツァルト ヴァイオリンソナタ全曲演奏会の第3回目では第2回目に続き、「1781年」当時、25歳だった天才モーツァルトが生み出した傑作たちを中心に、ウィーンでの新たな旅立ちを描きます。

どこまでも美しく、純度の高い音楽を世に生み出した天才ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)。その奇跡ともいえるモーツァルトの音楽の秘密に、鈴木舞、川口成彦という二人の才能が挑みます!

求道的な姿勢で音楽の本質を追究し、研ぎ澄まされた感性から生まれるインスピレーションをニコロ・アマティによって紡ぎ出す鈴木舞——。

ショパン国際ピアノコンクールで第2位を受賞し、新進気鋭の古楽器奏者として一躍、注目を浴びている川口成彦——。

今、奇跡とも言える二人の奏者のコラボレーションに、ときめきが止まりません。モーツァルトが駆け抜けた35年という短い生涯にも、たびたび、立ち止まり、振り返ることがあったろう。そして、さらに駆け抜けていく、それがモーツァルトの生涯でした。

モーツァルトの魂の「真昼の真只中」に書き遺された楽譜や言葉は、時代を超え、現代に生きる私たちの生命・生活・生涯のさまざまな場面で、真実を垣間見せてくれています。さあ、計り知れない慈愛に満ち溢れたモーツァルトの音楽の深みとかぎりない広がり、共に旅立ちましょう。(美竹清花さろん)



鈴木 舞 (SUZUKI Mai) Violin

東京藝術大学附属高校、同大学を卒業し、ローザンヌ、ザルツブルグ、ミュンヘンでディプロマ、国家演奏家資格を取得。在学中より国内外でリサイタルやコンサートに出演し、これまでに小林研一郎、円光寺雅彦、飯森範親、ニコラス・ミルトン、ヨルマ・パスラ、イヴァン・レプシツらの指揮で、読売日響、東響、日本フィル、スイス・ローザンヌ室内管、フィンランド・クオオピオ響、チェコ・モラヴィアフィル、ドイツ・ホフ響、クロアチア放送響、ザグレブ・ポリステン等と共演。

2007年チャイコフスキー国際コンクール(ロシア)最年少セミファイナリスト、2011年アンリ・マルター国際コンクール(ドイツ)ファイナリスト、2013年ヴァーツラフ・フムル国際ヴァイオリンコンクール(クロアチア)で優勝、オーケストラ賞、オルフェウス室内楽コンクール(スイス)優勝、2016年スヴィツァコフ国際ヴァイオリンコンクール(ロシア)第2位、2018年コブプミュージックアワード室内楽コンクール(イタリア)第2位。

2012年度チャネル・ビグマリオン・デザ・アーティスト。東京交響楽団と録音したベートーヴェン・ヴァイオリン協奏曲〜第3楽章、マスケタイズの瞑想曲が日経ミュージックセレクションCD「モーニング・イン・クラシック」に収録された。2017年にキングレコードよりデビューアルバム「Mai favorite」をリリース、2020年「ルドン・ロード・展」(三菱一号館美術館)のオーディオガイド、並びにタイアップCDに演奏が使用された。使用楽器は1683年製のニコロ・アマティ。



川口 成彦 (KAWAGUCHI Naruhiko) Piano

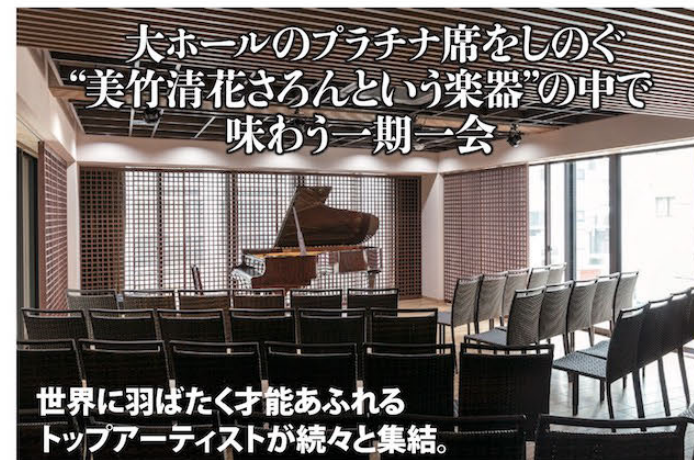
1989年に岩手県盛岡市で生まれ、横浜で育つ。第1回ショパン国際ピアノコンクール第2位、ブルージュ国際古楽コンクール最高位、第1回ローマ・フォルテピアノ国際コンクール優勝。フィレンツェ五月音楽祭や「ショパンと彼のヨーロッパ」音楽祭(ワルシャワ)をはじめ欧州の音楽祭にも出演を重ねる。

協奏曲では18世紀オーケストラ、[oh!] Orkiestra Historycznaなどと共演、2018年にはロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団のメンバーと共に室内楽形式によるピアノ協奏曲のリサイタルをオランダにて開催した。またモダンピアノでは2016年にアメリカにて世界的オーボエ奏者ニコラス・ダニエルと共にブランクの「オーボエ、バソーンとピアノのための三重奏曲」の最終稿の世界初演を行っている。東京藝術大学/アムステルダム音楽院の古楽科修士課程修了。

フォルテピアノを小倉貴久子、リチャード・エガールの各氏に師事。欧州のレーベルからリリースされたCDに加え、2018年には自主レーベル MUSIS を立ち上げ、第一弾としてバルトークの「2台のピアノと打楽器のためのソナタ」をアナログレコードでリリースする。またスペイン音楽をこよなく愛し、2019年にCD「ゴヤの生きたスペインより」を発表する(レコード芸術/朝日新聞特選盤)。2020年にはACOUSTIC REVIVEより「ショパン夜想曲&小品集」を発表。第46回日本ショパン協会賞受賞。

モーツァルト ソナタ全曲演奏会 (2021年~2023年)

- 第1回「ソナタ集」2021年1月13日(水)
- 第2回「1781年 vol.1」2021年7月28日(水)
- 第3回「1781年 vol.2」2022年1月15日(土)
- 第4回「さらなる深みへ vol.1」2022年7月13日(水)
- 第5回「さらなる深みへ vol.2」2023年1月14日(土)



大ホールのプラチナ席をしのぐ
“美竹清花さろんという楽器”の中で
味わう一期一会
世界に羽ばたく才能あふれる
トップアーティストが続々と集結。

日本のトップクラスの若手演奏家が、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。
美竹清花さろんが追求する“本物の音楽”は、
演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。

大好評につき
サロン・メンバーズ
追加募集中!



誕生。
クラシック音楽サロン、
宮益坂、
渋谷駅 徒歩2分



●お問い合わせ

株式会社 I L A (美竹清花さろん)

東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)

☎ 03-6452-6711 (平日10:00-18:00)

070-2168-8484 (時間外可)

Fax 03(3409)0188

